

Y23a 100回を迎えた愛知教育大学天文台一般公開

沢武文 (愛知教育大学)

愛知教育大学では、天文ミニ講座と天体望遠鏡を用いた観望会をセットにした愛知教育大学天文台一般公開を、一般市民を対象として定期的を実施しており、2015年1月で節目の100回目となる。

天文台一般公開がスタートしたのは2000年12月である。きっかけは、1997年3月に天文台の40cm反射望遠鏡が更新されたこと、大学も地域に対する社会貢献をすべきとの風潮が高まっていたこと、そして当時の大学院生の熱い働きかけがあったからである。第2回は2001年3月で、それ以降は奇数月の土曜日に、年6回のペースで開催してきた。天文台一般公開は、1時間ほどの天文ミニ講座と、その後の観望会で構成されている。観望会は40cm望遠鏡がメインだが、小型望遠鏡も数台用意し、参加者が自由に使えるようにしている。

2011年1月に60回目となり、それ以降は年10回と開催回数を増やして今回100回を迎えるに到った。2011年3月には、3D宇宙映像上映システムを導入し、「Mitaka」による「3D宇宙の旅」上映会を、観望会と同時に実施するようにした。その結果、雨天時の対応がしやすくなり、晴天時でも、天文台での混雑の緩和に役立っている。3D上映は学生が担当するため学生のモチベーションも上がり、学生にとってもよい刺激となっている。また、2014年3月には40cm赤道儀式望遠鏡が経緯義式60cmに更新され、観望会も実施しやすくなった。

これまでの98回までの参加者数は、一般公開全体では6175名で、このうち天文ミニ講座の参加者は4390名である。また、天文台一般公開以外にも、全国七夕同時講演会や日月食等の天文イベントに合わせ、特別観望会も数多く実施している。今回は、天文台一般公開100回目という節目の回数を迎えるにあたり、愛知教育大学における一般市民を対象とした天文普及活動のこれまでの取り組みについて報告する。